

氏 名 歌代 公司

○視察都市：北海道 森町 令和7年7月24日（木）

- 視察項目
- ・ 通年議会の運営と課題
 - ・ 議会改革の取り組み

所 感

森町の視察も一心会の皆さんの人脈により実現した視察であり、森町議会の多くの議員さんに参加いただいた視察であった。大変示唆に富む内容であり、このことに心底よりの感謝を申し上げたい。

森町議会 木村俊広議長をはじめ、6名もの議員さんにご参加いただいて、視察項目に関すること以外にも、地方議会議員と地域の町民との距離感などについて、忌憚のない意見を拝聴できたことはとても有り難いことだと感じた。

通年議会については、16年前に導入されており、どの議員さんも事務局の方も「通年議会ではない議会というのが、どのような感じか、よくわからない」といわれるまでに定着していた。

それは、漫然とそのように続いているというものではなく、相応の覚悟を持ち続けて議会も議会事務局も議会運営を継続されていると

いう証左に他ならなかった。

「委員会や所管事務調査などもあるなかで、個々の議員さんのスケジュールは立てられますか？」という質問に対して、「町議会の収入から考えてもおわかりになるかと思うが、多くの議員が他に仕事を持っていたり、家庭の事情が有ったりする。しかし、『それはさておき、議会が優先である』と、皆、考えている」「私も会社経営者だが、決算などを含む長期の議会のときは、そのために人を頼んでいる」とのことであった。感服しきりである。また、議員が兼業することへの町民の理解も深いとのことであった。

森町は海が近く自然豊かな町であった。その環境の恵みを活かした産業、事業が営まれてもいる。しかし、それは同時に毎年、風雪に耐える期間があり、活火山である北海道駒ヶ岳も間近にある環境のなかで一万三千人が力を合わせて生き抜かんとしてきた町の力強さがあってこそその豊かさである。

互いに主張をぶつけ合いながらも、通年議会を調和的に運営されている森町議会からは、時代や環境のせいにして言い訳などしない、不退転の決意と覚悟が感じられた。この点、自身を振り返り与えられた環境のなかで、どのように志を重ねていくか、深く考えさせられる視察であった。

(了)